

代表者の声 (一部抜粋)

緑 あふれる山々と、美しく輝く阿蘇海を臨み、自然の恵みを十二分に感じるこのことのできるこの与謝野町を故郷に持てることを、大変うれしく思います。日々の生活や、小学校、中学校での生活の中で、この壮大な自然、そして歴史を感じさせる文化に触れ、学んできました。私がこうしてのびのびと成長することができたことも、この地域のおかげだと感じております。

現在はコロナ禍という情勢の中で、私たちが子どものころに思い描いた学校生活、社会生活とは大きく異なるものとなった人も多くいることと思います。また、高校時代には3年生の大会の中止、延期など辛い思いを経験したこともありました。しかし、学生時代、そして今、コロナ禍を経験しているからこそ、学んだことも多くありました。そして、今後、社会を担っていく存在として、私たちの学びは社会に活かされていくと感じております。未だ続いているコロナ禍ではありますが、この日々が私たちの糧に、そして社会に貢献できる力になると信じて、力強く頑張っていきたいと思っております。

第1部代表 なかがわ みずき 中川 瑞希

義 義務教育が終わる中学を卒業すれば、その先の進路は皆バラバラになってしまうのが当たり前です。15歳でそれぞれの道に進んだ私たちが、5年の時を経て20歳になった今、またこうして、故郷である与謝野町で再会できていることをうれしく思います。皆さんはどのような5年間を過ごしたのでしょうか。

この3年ほど、新型コロナウイルスの大流行により乱れる世の中を私たちは10代で経験しました。人と会いたくても会えない、先が見えず、どこか孤独を感じるような、やるせない時間を経験したからこそ、大切な人と会えている時間がどれほど尊いものか、家族や友達、自分の周りに居てくれる人たちがどれだけ大切な存在であったか、皆さんも身に染みて感じたことと思います。

コロナ前を生きてきた私たちにとって、コロナ後の今の世界は変わり過ぎたかもしれません。しかし、そんな今を生きる私たちだからこそ感じ取らなければならないことがあると思います。それは、当然と思っていたことの大事さと価値です。20歳という節目を迎えた今、日常と化したすべてのことに対して当然のことだという認識を改め、人と人とのつながりや、明日何が起るかわからない今日を大事に生きて、生きることの尊さを理解できる大人になりたいと強く思います。

第2部代表 いっしき さち 一色 祥



第2部を代表して謝辞を述べる一色さん(右)

与謝野町は、私の青春時代と思い出が詰まった愛しい場所です。大好きな友達や家族と巡り会えた愛しい、愛しい場所です。



令和5年与謝野町 二十歳の成人式

1月8日、野田川わーくぱるにおいて、20歳の門出を祝う「令和5年与謝野町二十歳の成人式」を開催しました。令和4年4月1日の民法改正により成人年齢が「18歳」に引き下げられましたが、与謝野町ではこれまでと同様に20歳を迎える方を対象としています。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため2部制での開催となりましたが、180人が参加。会場では華やかな振袖や羽織袴、スーツ姿の来場者たちが、同級生との久しぶりの再会を喜んだり写真を撮りあう姿が見られました。

対象者の概要

- 対象年代
平成14年4月2日
～15年4月1日生まれ
- 該当者数
229人
- 参加者数
180人 (78.6%)

